街歩きヒストリア

圓鍔勝三の彫刻「花の精」。
後ろには広島城が見える。

㊲ 彫刻「花の精」

基町

広島城内堀の西南端に、白くひと際映える像があります。広島県尾道市出身の彫刻家、圓鍔勝三（1905～2003)の「花の精」という作品です。

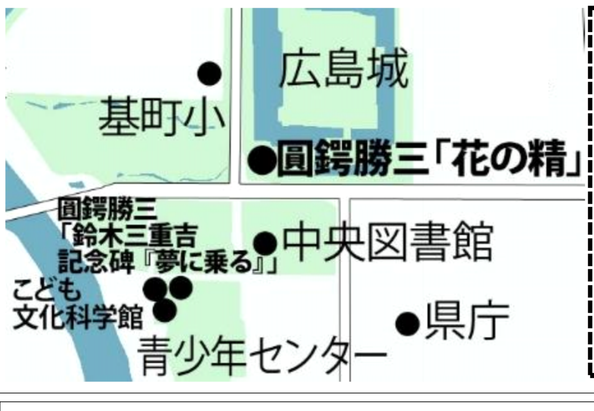
この作品は、昭和 49 年圓鍔が 70 歳の時、平和を願って制作されました。イタリアから取り寄せた大理石で作られており、重量約７．５トンもありますが、原型作成から仕上げまで全て自分で作ったとのことです。

平和を希求し続けた彼の作品は広島市内に数多くあり、ちょっと歩くだけで美術館にあるべき素晴らしい作品と触れ合うことができます。市内ウォーキングも益々楽しくなり、リラックスできますね。

（文、写真・小川 敏明さん）

広島市こども文化科学館前の「(鈴木)三重吉記念碑」。碑の彫刻は、圓鍔勝三作「夢に乗る」

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。編集してくださる方を随時募集しております。



HP（検索：広島市中央公民館）にバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください。